

社団法人日本品質管理学会（JSQC）計画研究会  
「統計・データの質マネジメント研究会」の活動状況について

2011/04/22 椿 広計

## 目 的

- データ、そこから作成される一次統計あるいは試験結果、意思決定のために加工される二次統計などの
  - プロダクトとしての質（達成精度）
  - 作成プロセスの質とそのマネジメントシステム、
  - 設計の質
- に関して、
  - 定義、
  - 質確保・質保証のための標準的プロセス、
  - 設計で質を確保する方法論
- などを
  - 政府統計調査（内閣府統計委員会からの依頼）
  - マーケティング調査、
  - 医薬品臨床試験データマネジメント（GCP）などの
- 様々な分野で明らかにし、その共通点などを明らかにする
  - 産官学の様々なステークホルダーがデータの質保証について、研究を進めることは類例がない
  - 加工統計ないしは意思決定のための数値に対するバイアスや精度あるいはそれらの要因についての研究もおこなわれていない
    - バイアスが単純な標本誤差起因だとすれば、その扱いについては多くの先行研究
    - 関心があるのは、むしろ非標本誤差などの影響

## 構 成

- 産官学の分野から計19人が参加（主査：椿）他にエキスパートメンバーも
  - 産：日本適合性認定協会(認定機関)、日本マーケティングリサーチ協会、製薬協、CRO等
  - 官：総務省、厚生労働省、経済産業省、日本銀行
  - JSQC：椿(理事、日本統計学会員)、兼子(事業理事)、元山(日本統計学会員)、山田(編集理事)、山本(日本統計学会員)、吉澤(元JSQC会長、元統計審議会委員)、美添(前日本統計学会長)

## 開催実績

- JSQC理事会承認後、2010年7月13日以降これまでに計7回開催（第1R：現状把握と問題抽出は終了）
  - ISO20252 市場・世論・社会調査・規格の考え方と認証業務の実際(統計関連学会連合大会企画セッション)
  - 薬事法における承認申請資料の信頼性保証について
  - 公的統計の品質評価に関する政府の取組 等

## 研究予定

- JSQC40年度（2010.10～2011.09）の研究テーマ（下記課題テーマと小自由テーマの組み合わせ）
  - 項目A：一次統計、二次統計精度のGUM(計測の不確かさ)に基づく評価
  - 項目B：公的統計作成へのISO20252適用可能性の検討
    - データマネジメントに要求される横断的指針作成の必要性とブランドデザイン
- マイルストーン
  - 3月：項目B研究計画＋(項目A:中間発表)
  - 4月：項目A：研究中間報告
  - **5月28日：JSQC研究発表会**：項目A研究会中間報告
  - 6月：項目B：研究B中間発表＋他項目トピックス
  - 7月：項目A：進捗報告＋他項目トピックス
  - 8月：項目B：項目A発表討論
  - **9月：統計関連学会連合大会(九大)**：項目A、B中間報告
  - **10月：JSQC年次大会**：項目B中間報告
- JSQC41年度以降（2011.10～2012.09）の研究テーマ例
  - 情報の価値評価
  - 情報加工方法の情報品質への影響 等

## 【参 考】：項目A

- GUM:計測の不確かさ表示の方法を国際標準化
  - Guide to the Expression of Uncertainty in Measurement
  - 国際標準化機構、国際度量衡委員会など8つの国際機関，学会連合が共同して、1993年発行
- 伝統的考え方
  - 誤差起点で考える
    - 系統誤差 (Bias)とランダム誤差 (Precision)
- GUMの考え方：真値概念を捨てる Error概念も捨てる
  - 分散成分起点
    - 不確かさの2つの成分
      - 客観分散 (Type A) と主観分散 (Type B) とを加える